



**(図上)**

相溶化剤として既存の MAPP(無水マレイン化ポリプロピレン)を用いた複合材では、PP マトリックスの結晶性が低下し、炭素繊維と樹脂間は面ではなく点で接着するため、界面接着性が十分でなく、接着力が薄弱

**(図下)**

相溶化剤として新開発の iPP-PAA(アイソタクチックポリプロピレンポリアクリル酸共重合体)を用いた場合は、PP マトリックス内の結晶と結合して結晶性が向上し、かつ炭素繊維と樹脂間が面で結合するため、接着力が強く、優れた機械的特性(高比強度、高比弾性率)が得られる

**【サンプルの有償提供】**

株式会社三栄興業では iPP-PAA のサンプルを有償で提供しています。  
詳細は以下までお問い合わせください。

株式会社三栄興業 柏テクニカルセンター  
 研究開発室チーフ 佐々木 大輔  
 〒277-0882 千葉県柏市柏の葉 5-4-19 東大柏ベンチャープラザ 206A  
 TEL:04-7192-7506 FAX:04-7192-8375  
 E-mail: sasaki@misato-net.com



新規相溶化剤  
iPP-PAA  
サンプルのイメージ